

人間と自然の特別な関係

南アルプスユネスコエコパーク

2014年、南アルプスは、生物多様性の保全・持続可能な開発・科学研究と教育への支援に関する要件を満たし、ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に認定されました。

ユネスコエコパークには三層の指定区域があります。最も外側の移行地域では、さまざまな人間による活動が行われ、関係者は資源の持続可能な開発に取り組みます。移行地域の内側の緩衝地域では、地域の自然環境を利用して環境教育や研究などの活動を行う地域です。中心にある中核地域では、自然環境が保護・保全されます。

南アルプスは、このような人間と自然の持続可能な関係を示す最適な例です。山麓には住宅、水田、果樹園、その他の農地が広がっています。緩衝地域は南アルプス国立公園内にあり、エコツーリズムや教育活動、ハイキング、バードウォッチング、キャンプが行われています。緩衝地域では現在でも持続可能な伐採が行われていますが、在来生物に影響を与えないよう厳重に管理されています。そして、動植物の宝庫である中核地域では、生態系の積極的な保護・保全が行われています。

ユネスコエコパークの枠組みは、竹製の仕掛けを使った伝統漁法や、井川メンパという曲物と漆塗の技術を用いて弁当箱を作る南アルプスユネスコエコパークの静岡方面の工芸など、文化的に重要な活動も評価しています。

南アルプスユネスコエコパークは、この特別な地域の文化・歴史・自然の要素を守り育む継続的なプロセスが公認されたものです。